

NCGM PRESS



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
医療連携ニュース

National Center for
Global Health and Medicine Press
Vol.5
June



新任のご挨拶



NCGM 院長

杉山 温人

平 成31年4月1日に、国立国際医療研究センター（NCGM）病院長に就任いたしました。それまでは市川市にあるNCGM国府台病院長を務めていました。私とNCGMとのつながりは深く、最初に呼吸器内科医として赴任したのは1992年に遡ります。アメリカからの帰国直後に、国立中野療養所との統合を控えた医療センターの助けをするようにと教授に言われたのがきっかけです。その後、いったんはセンターを離れ、大学、民間病院を経て再度、医療センターに戻ってきたのが2004年でした。以来14年間にわたりNCGMにはお世話になっております。呼吸器内科医としての技量を磨き、一人前の医師として育てていただいた御恩のあるセンター病院に少しでも恩返しする事ができればと考えています。

センター病院はナショナルセンター（NC）の一員ではありますが、ほかのNCとは違って特に専門領域を定めていません。国際感染症、HIV、糖尿病、救急医療などに特色がありますが、全ての診療分野で専門医およびスタッフが連携と取り合う診療体制が整っており、NCとしては唯一の総合病院です。また、地域がん診療連携拠点病院としてがん診療にも力を入れています。多くの合併症を持つ患者さんやご高齢の患者さんの外科手術、複雑な内科疾患への対応、原因不明な疾患等に対処する総合診療、多くの身体疾患を合併した精神科患者さんの診療等も、当院の特長と言えます。周産期や母子への対応、不妊症治療等も充実しており、臨床ゲノム

診療科外来では遺伝カウンセリングを行っております。このように総合的な診療体制を基盤とした高度医療を展開致していますので、様々な疾患や症状の患者さんに幅広く対応できます。さらに職員一同で「断らない病院」をモットーにしようと考えておりますので、診断や治療に難渋した患者さんがいらしたら、是非、センター病院にご紹介下さい。

国際診療部を設置して外国人患者診療の円滑化を進めており、外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）の認証を受けています。日本国際病院（ジャパンインターナショナルホスピタルズ）としても推奨されました。来年に控えました2020年夏の東京オリンピック・パラリンピックに向け、さらに体制整備を進めて参ります。最近では、ニューズウィーク誌2019年4月5日版において世界のベストホスピタル100の一つに選ばれました。メイヨークリニック、マサチューセッツ総合病院などと並んで私どもの病院が選出されたことは、この上ない光栄であり、今までのセンター病院の取り組みが評価された証だと職員一同喜んでおります。

国立国際医療研究センター病院の理念は、最善の総合医療を提供し、疾病の克服と健康の増進を通じて社会に貢献することにあります。当院は、これからも国内外の皆様の疾病の克服と健康の増進への寄与の実現に向かって、邁進していく所存です。地域の先生方、医療関係者の皆様、患者の皆様のご支援・ご理解を何卒よろしくお願い申し上げます。

この1年の
絵画

前衛芸術家
草間彌生



© YAYOI KUSAMA

みんなは平和を求めている 2013

Yayoi Kusama

幼少より水玉と網目をを用いた幻想的な絵画を制作。1957年単身渡米、独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与え前衛芸術家としての地位を築く。1973年に帰国後も全世界を飛び回り活躍中。美術作品の制作発表を続けながら小説、詩集も多数発表。2016年に文化勲章授賞。2017年より、ワシントンDCのハーシュホーン美術館彫刻庭園を皮切りに、北米ツアーが巡回中。

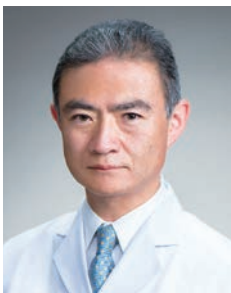


新任のご挨拶



NCGM 副院長
原 徹男

2 019（令和元）年5月1日付で新たに副院長を拝命した原徹男です。専門は脳神経外科ですが今回副院長としての担当は総務、経営、手術、医療の質、医療安全、感染対策、医療連携、広報、臨床倫理等多岐にわたります。2014（平成26）年に初めて副院長職を拝命しすでに5年が経過しましたが、この間に病院を取り巻く医療環境は著しく変化して参りました。当センター病院は、言うまでもなく高度総合医療を基盤とした超急性期病院ですが、ナショナルセンターとしてまた特定機能病院として社会から期待されるころは、一言で言えば世界中の人々への良質で高度な医療の提供だと思えます。そしてこの目的の達成のためには医療の安全に対する文化の醸成と高度な知識や技術を兼ね備えた人材の育成こそが最も重要なことと考えております。具体的に申しますと、①医療の質の向上を常に念頭においた診療体制を構築すること、②地域の皆様と強力な医療連携をすすめ超急性期の高度総合医療を提供すること、③ミッションの一つである開発途上国の医療の水準をあげること、④教育や研究環境を整備し次世代を担う優秀な人材を育成すること、⑤女性医師の活用や働き方改革を断行し労働環境を整備すること—これら5項目こそが最も今われわれが率先してやるべきことではないかと考えております。



NCGM 副院長
丸岡 豊

こ の度、5月1日付けで国立国際医療研究センター病院副院長に就任致しました。医工連携、バイオバンク、労務、情報等を担当し、歯科・口腔外科診療科長、バイオバンク長、医工連携推進室長等も兼務しております。医工連携とは少し耳慣れない言葉かもしれませんが。私たち医療者には日常の臨床の中で、「こんなものがあったら便利だな」「もっとこうなればいいのに」などと思うことはよくあります。そういった医療者のニーズと企業の持つ独自技術をマッチングさせ、医療機器等の開発に役立てようとするものです。自動車や電子・精密機器などの分野ではその品質や技術力で日本製が世界を席巻しているにも関わらず、医薬品や医療機器は輸入超過状態となっておりますが、裏を返せばまだ伸びしろがあるということです。当センターは、臨床ニーズ発表会をすでに10回も行い、わが国でも有数の医工連携の拠点となっております。また「敵」、つまり海外の医療機器の開発状況を知るための勉強会も主催しており、当院医師による医療機器の解説の後、関連省庁や企業からの

特に診療体制としては地域の皆様と強力な連携体制を構築させていただき、迫り来る未曾有の超高齢化社会に備え、高度総合医療を基盤とした救急医療の充実とがん診療や心・脳卒中診療体制の拡充などが最優先事項と考えています。また病院の国際化も大変重要な課題です。観光目的の訪日外国人の著しい増加や2020（令和2）年夏の東京オリンピック・パラリンピック開催に鑑み、外国の方でも安心して病院を受診できるような体制整備が広く社会から求められています。この点に関しても当院はいち早くJMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）を受審し、2015（平成27）年9月に都内では初、全国では9番目にその認証を取得しました。最近では外来初診患者の約15%、入院患者の約6%、救急外来の約14%が外国人の患者さんとなっております。すでに社会での認知度や評価も高くこの先も外国の方にとってよりいっそう受診しやすい環境づくりをすすめて参ります。

今後も時代に即した診療体制の構築に全力を尽くし、当センター病院が連携医の先生方や患者さんに心から信頼される最高のgrand general hospitalとなるよう私自身全身全霊を傾けて邁進いたす所存ですので引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

出席者が活発な議論を交わします。その最新動向を知ることは世界の潮流を知ることができる上に、外国人の発想を知る上でも、また機器開発の大型研究を志向する上でも大変有用であろうと考えております。

これら一連の試みを始めてまだ4年ほどで、うまくいかないことの方が多いのですが、医療者のニーズから製品のデザインを考え、知的財産の確保、薬事承認などの入り口を支援することを最終的な目的としています。皆様の医療ニーズもお寄せいただければ幸いです。

私は口腔外科を専門とする歯科医師です。つまり、MDの先生方とは養成課程も資格も異なります。私のような者がこのような立場になることはほとんどなかったことと思いますが、ある意味異なった視点でものを見られるのではないかと愚考しております。

杉山病院長を補佐し、より一層良い病院になるよう努力してまいります。どうぞ今後ともよろしくごお願い申し上げます。



NCGM 副院長
梶尾 裕

このたび、杉山病院長、原副院長のもと、丸岡副院長とともに、新たに、令和元年5月より副院長（診療、保険、国際、教育、研究担当）を拝命致しました梶尾裕と申します。日頃、連携医の先生方には大変お世話になっております。どうぞよろしくお願ひいたします。

当院にて、引き続き、糖尿病内分泌代謝科診療科長を兼務させていただいております。これまで、地域の先生方とは専門の糖尿病や内分泌疾患の患者さんについての病診連携を進めてまいりました。また、新宿区医師会糖尿病研究会の世話人として、あるいはリトリートカンファレンスの担当者としてなど長年様々な機会を通じて地域の先生方との交流を深めてまいりました。この度副院長という重責を担うこととなり、診療担当として、これまでにまして診療面における連携の重要性を強く感じております。

医療をとりまく環境は年々厳しさを増しています。また、それとともに取り組むべき課題も大きく変わってきています。私が当センターに着任したのは

2001年ですが、当センターはそれ以降、高齢化とともにチームによる認知症・精神疾患対策、がん治療の進歩とともに、ゲノム医療・個別医療推進、就労支援等の生活サポートも含む幅広いがん診療体制、より充実した救急医療体制、国際感染症や薬剤耐性を含む幅広い感染症対応、糖尿病をはじめとした生活習慣病対策、人間ドックや外国人診療など、「総合医療」を基盤とする高度急性期医療を提供する唯一のナショナルセンターとして、より高いレベルの医療の提供に一同努力を続けてまいりました。

私は副院長として、あらためて当センターのあり方、ミッションを考えてみますと、患者さんに身近な先生方との緊密できめ細かい連携がますます重要になってきていると感じます。患者さんを通じた病診連携を進めていくとともに、先生方からの当センターについての様々なご意見をいただきたいと思います。引き続き、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



看護部長
佐藤 朋子

平成31年4月1日に看護部長を拝命いたしました、佐藤朋子と申します。平成22年から3年間副看護部長として当院に勤務しておりました。当院から離れている間に外来棟のオープン、国際診療部、入退院支援センターの設置など、疾病の予防や地域包括医療へと医療の広がりや大きな変化を実感いたしました。看護管理者として、微力ではありますが病院運営に携わるとともに、看護の質向上に向けて看護職員への支援に努力する所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、当院の看護部門には約800名の看護職がおります。当院が提供する様々な医療に対応するべく、5分野8名の専門看護師、13分野28名の認定看護師、認定看護師の資格を持ち特

定行為研修を修了した者も5名おります。今後は当院で特定行為研修を開始できるよう準備を進めているところです。スペシャリストの育成とともにジェネラリストの育成にも力を注ぎ、看護の専門性を見極め様々な状況に柔軟に対応できる看護職を育てていきたいと考えています。

近年看護を提供する場は病院という限られた場だけではなく、一人ひとりの生活を軸に様々な場も必要とされる時代となりました。病院内はもとより、病院と地域の生活をつなぐ地域医療連携において、また、病院から地域の中でなど、様々な場所でいきいきと看護を実践できる看護職の育成に力を注ぎたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



事務局長
柳澤 武

センターの運営につきまして、多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

陸軍病院として創立されて以来、戦後は国立病院として、その後は行政改革による統廃合や独立行政法人化などを経て現在に至っておりますが、この間、地域の方々に支えていただき、深く感謝申し上げます。

当センターは、「国立研究開発法人 国立国際医療研究センター」という極めて馴染みにくい名称となっているところですが、医療面においては、救命救急センターをはじめとして、まさに地域医療を中心にその役割を担わせて頂いております。このような中、患者様や連携させていただいている医療機関の皆様から真に必要とされるセンタ

ーであるためにどうあるべきか、そのために病診連携や病病連携をはじめとして具体的にどう進めるべきか等について、現在、これまでの枠組みにとらわれることなく様々な検討し、病床の再編や診療科間連携を推進する組織の構築など順次実施しております。

独立行政法人の一つとして運営させていただいているところですが、経営面やその他法令面においても民間医療機関と同様の扱いとなっており、国の医療政策等も踏まえつつ、患者様や地域の医療関係の方々の声に一層耳を傾け、あるべきセンターを日々追求し続けてまいりますので、私どもに対するご意見をお願い申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



Nursing Information



看護週間

5月12日はフローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。国際看護師協会ではこの日を「国際看護師の日」と定めています。

当院では今年5月10日～16日を看護週間として「看護の心をみんなの心に」をテーマに、アトリウムに各病棟の日常の看護場面や認定看護師のパネルを展示しました。



5月10日の「看護フェア」イベントでは、血糖測定、手洗いコーナー、ハンドマッサージ体験、フットケア相談、

看護相談、おくすり相談、栄養相談ブースを設置。のべ67名の方にご利用いただきました。アトリウム舞台で開催した認定看護師による糖尿病と脳卒中の市民公開講座、認知症予防の健康体操の実演は、昼食をとりながら気軽に聞いていただきました。訪れた方からは「特にハンドマッサージがよかった」「楽しかった」「次年度もぜひやってほしい」などのご感想をいただきました。

わずかな時間ではありましたが、ほんの少し看護の心に触れていただけたのではないかと思います。これからも看護師一同、あたたかい看護の心が届くよう努めてまいります。



診療時間・アクセス

- 外来診療時間** 8:30～17:15
- 初診受付** 紹介状が無い場合 8:30～11:00
紹介状が有る場合 8:30～14:00
- ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科、心療内科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科の10科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。
- 休診日** 土・日・祝日・年末年始
- アクセス** 都営地下鉄大江戸線 若松河田駅より徒歩5分
東京メトロ東西線 早稲田駅2番出口より徒歩15分
JR大久保駅 又は 新大久保駅より都営バス新橋行、
JR新宿駅西口より都営バス医療センター経由女子医大行
「国立国際医療研究センター前」下車
- HP** <http://www.hosp.ncgm.go.jp>

